

4 爬虫類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

1. 三重県の爬虫類相

三重県内の陸産爬虫類はカメ目3科4種、有鱗目6科12種の、2目9科16種の生息が確認されている。そのうち、カメ目は、イシガメ科のクサガメ、ニホンイシガメ、ヌマガメ科のアカミミガメ、スッポン科のニホンスッポンの4種である。

有鱗目については、トカゲ亜目ではヤモリ科ニホンヤモリ、トカゲ科ニホントカゲ、ヒガシニホントカゲ、カナヘビ科ニホンカナヘビの4種、ヘビ亜目ではタカチホヘビ科タカチホヘビ、ナミヘビ科のジムグリ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ、シロマダラ、ヤマカガシ、クサリヘビ科のニホンマムシの8種である。海産爬虫類は、カメ目のアオウミガメ、タイマイ、アカウミガメ、ヒメウミガメ、オサガメの5種、ヘビ亜目のヒロオウミヘビ、エラブウミヘビ、マダラウミヘビ、セグロウミヘビの4種の記録がある。

1) カメ目

クサガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポンの3種は、県内では各地域の河川や池沼、水田等の水辺に生息している。このうちニホンイシガメは日本固有種であり、平地から山間部まで広く分布している。スッポンについては食用とするため各地で養殖された経緯があり、遺伝子分析の結果、本県でも在来個体と移入された大陸産個体が交雑していることが確認されており、今後の調査研究が待たれるところである。

アカミミガメは要注意外来生物であるが、県内でもすでに各地の平地のため池や河川に広く分布し、定着している。また、山間部でも遺棄されたと見られる個体が確認されている。

ウミガメ類のうち、アカウミガメは、熊野灘沿岸および志摩半島、伊勢湾沿岸の海岸で産卵が確認されている。アオウミガメは鳥羽沖以南の熊野灘沿岸で回遊が記録されており、定置網での捕獲記録がある。その他のタイマイ、ヒメウミガメ、オサガメは、熊野灘沿岸の沖合を稀に回遊するものと思われ、定置網による数少ない捕獲記録がある。

2) 有鱗目

陸産の有鱗目については、いずれの種も、県内で広く分布が確認されている。

タカチホヘビ、シロマダラは主に山地の林床に生息し、夜行性で普段は落ち葉や倒木の下などに潜んでいることから人目に触れることが少なく、幻の蛇とも呼ばれることもあるが、調査により生息確認地点が増えつつある。

なお、ニホントカゲについては、Okamoto and Hikita (2012) により、東日本およびロシア沿海地方に生息するヒガシニホントカゲ *Plestiodon finitimus* と西日本に生息するニホントカゲ *Plestiodon japonicus* に分類され、文献および標本調査により県内に両種が分布することが明らかになったため、これらを区分し種数に追加した。

ウミヘビ類については、熱帯、亜熱帯の海域に広く分布する種であり、稀に黒潮に乗って本州沿岸まで北上するものと考えられ、三重県沿岸でも記録はあるがその数は少ない。

2. 調査内容と結果

今回の三重県レッドリストの改訂においては、三重県レッドデータブック2005に記載された陸産爬虫類のニホンスッポン、タカチホヘビ、シロマダラの3種に、近年環境悪化や開発による生息適地の減少の影響を受けているとして環境省第4次レッドリストで準絶滅危惧種 (NT) とされたニホンイシガメを加えた4種と、三重県沿岸での生息が確認されている海産爬虫類のアカウミガメ、アオウミガメの計6種を評価対象種とした。

調査は三重県レッドデータブック改訂委員会哺乳・爬虫・両生類専門部会委員により、対象種について三重県レッドデータブック2005の発刊以降に、調査報告された文献および公共機関や個人の未発表の調査記録からの情報収集と、既知の生息地およびその他地域における現地調査を行った。また、既知の生息地については種の生息環境の現状についても着目した。

また、各専門委員の独自調査のほか、三重県レッドデータブック改訂委員会の合同調査として、伊賀市河合川上流槇山地区および法花一帯の湿地、熊野市紀和町楊枝川地区で踏査による調査を行った。

評価対象種の評価にあたっては、三重県レッドリストカテゴリー分類ルールに従ってランクを評価したうえで、専門部会委員相互の協議により確定を行った。

3. 絶滅危惧種の概要

評価の結果、絶滅種、絶滅危惧 I A 類および I B 類には該当種はなかった。

絶滅危惧 II 類 (VU) にアカウミガメ、準絶滅危惧 (NT) にアオウミガメを選定し、ニホンスッポンは情報不足 (DD) のままとした。

また、タカチホヘビとシロマダラの2種については近年の調査により生息確認地点数が増えつつあること、

ニホンイシガメについては、県内では広く普遍的に分布が確認されていることから低懸念（LC）としてレッドリスト対象外とした。

主な参考文献

Okamoto, T. and Hikita, T. 2012. A new cryptic species allied to *Plestiodon japonicus* (Peters, 1864) (Squamata: Scincidae) from eastern Japan, and diagnoses of the new species and two parapatric congeners based on morphology and DNA barcode. *Zootaxa*, 3436: 1-23.
 富田靖男. 1980. 三重県の爬虫・両生類相. 三重県立博物館研究報告 自然科学, 2: 1-67.

(上田利彦)

除外種

「三重県レッドデータブック2005 動物」掲載種のうち、今回の改訂により低懸念（LC）と判定された種、及び環境省第4次レッドリストに掲載されているが、本県の2014年版レッドリストでは評価の対象から外れた種とその理由は以下のとおりである。

(表4-1) 改訂により低懸念（LC）となった種

No.	目名	科名	和名	改訂前 県ランク	除外理由
1	有鱗	タカチホヘビ*	タカチホヘビ*	NT	近年の調査で生息確認地点が増加傾向にある。
2	有鱗	ナミヘビ	シロマダラ	NT	近年の調査で生息確認地点が増加傾向にある。

(表4-2) 環境省第4次レッドリスト掲載種のうち、不掲載となった種

No.	目名	科名	和名	改訂前 県ランク	除外理由
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	ランク外	県内では産地が多数確認されている。

爬虫類レッドリスト

絶滅危惧II類 (VU)

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
カメ	ウミガメ	アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	EN	83

準絶滅危惧 (NT)

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
カメ	ウミガメ	アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	VU	83

情報不足 (DD)

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
カメ	スッポン	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>	DD	83

爬虫類レッドリスト 新旧対照表

本書に掲載された爬虫類レッドリスト（改訂後のカテゴリー）と「三重県レッドデータブック2005」に掲載した爬虫類レッドリスト（改訂前のカテゴリー）との新旧対照表は以下のとおりである。

		改訂前のカテゴリー						種数
		EX	CR	EN	VU	NT	DD	
改訂後のカテゴリー	EX							0
	CR							0
	EN							0
	VU				アカウミガメ			1
	NT						アオウミガメ	1
	DD						ニホンスッポン	1
	LC					タカチホヘビ シロマダラ		2
種数		3	2	3	8	5	6	

アカウミガメ

Caretta caretta (Linnaeus, 1758)

カメ目ウミガメ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：EN

選定理由： 本県沿岸域では漁業による混獲で多数が死亡しており、減少している。また、卵が高波などによって流出することが多い。

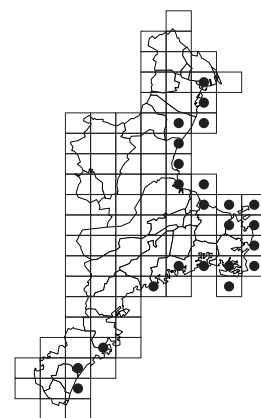
種の概要： 北太平洋の個体群においては、日本の砂浜が唯一の産卵場である。日本で生まれた子ガメは海流によりメキシコ沖などへ運ばれ、成長した後に再び日本近海に出現する。

分 布： 日本沿岸に広く回遊するが、産卵場のある太平洋側の海域に多い。伊勢湾および熊野灘沿岸へは春から秋に回遊し、夏に各地の砂浜で産卵する。(メッシュは産卵地点)。

現況・減少要因： 県内の産卵回数は近年増加傾向にあり、最近5年間では50~227回が確認されている。定置網(中層定置)などにより相当数の成体と亜成体が混獲され死亡している。また、近年では台風などの高波により流出する卵が非常に多い。

保護対策： 漁業による混獲の実態を把握するとともに、混獲を防ぐため漁具の改良が検討されるべきである。また、高波による流出から卵を守るため、移植や孵化施設を検討する必要がある。

文 献： 1. 2. 3. 4. 5. 6.



(若林郁夫)

アオウミガメ

Chelonia mydas (Linnaeus, 1758)

カメ目ウミガメ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：VU

選定理由： 本県沿岸域では漁業による混獲で多数が死亡しており、減少している。

種の概要： 植物食で、アマモなどの海草やマクサなどの海藻を好む。熱帯から亜熱帯の砂浜で産卵しており、日本では南西諸島や小笠原諸島に産卵場がある。子ガメの回遊ルートについてはよく分かっていない。

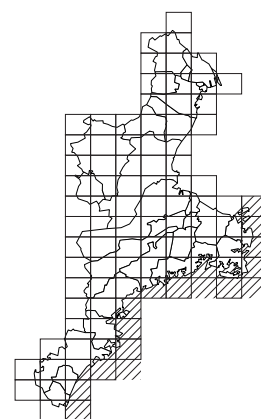
分 布： 日本近海に広く回遊するが、太平洋側の海域に多い。

現況・減少要因： 摂餌のため、成体および亜成体が熊野灘沿岸に多数回遊する。定置網(中層定置)、刺網などにより相当数が混獲され死亡している。

保護対策： 漁業による混獲の実態を把握するとともに、混獲を防ぐため漁具の改良が検討されるべきである。

特記事項： 本県沿岸では、亜種であるクロウミガメ *Chelonia mydas agassizii* の捕獲記録もある。

文 献： 5.



(若林郁夫)

ニホンスッポン

Pelodiscus sinensis (Wiegmann, 1835)

カメ目スッポン科

三重県：情報不足 (DD)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：DD

県内の河川や池で見られるが、在来のものか人為的に持ち込まれたものかを含め、詳細は不明。

(若林郁夫)

文 献

1. 鶴田真利絵・堤 円・水谷祥子. 2014. 三重県北中部におけるアカウミガメの上陸・産卵状況、およびウミガメ類のストランディング状況 (2011年). 三重の生きものだより, 50: 2-7.
2. 若林郁夫. 1994. 三重県沿岸のウミガメ類. 三重の生物 (三重生物教育会 編), pp.293-295. 三重生物教育会, 津.
3. 若林郁夫. 1994. 志摩半島南部におけるアカウミガメの産卵状況. 日本のウミガメの産卵地, pp.83-89. 日本ウミガメ協議会, 枚方.
4. 若林郁夫. 1998. 三重県下での最近10年間の産卵状況. 紀伊半島のウミガメ—十年のあゆみ—, pp.37-43. 紀伊半島ウミガメ情報交換会, 田辺.
5. 若林郁夫. 2006. 三重県のウミガメの現状. 第17回日本ウミガメ会議 (熊野・七里御浜会議) プログラム (日本ウミガメ協議会 編), pp. 7-8. 日本ウミガメ協議会, 枚方.
6. 若林郁夫・中村みつ子・半田俊彦・岡 由佳理・井田なつき・藤田和也. 2014. 志摩半島におけるアカウミガメの産卵状況 (2012年). 三重の生きものだより, 50: 8-11.